

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	20073
課題名	当院における心膜外脂肪壊死の実態調査
研究期間	承認日～2023年3月31日
研究の対象	2015年1月1日～2020年7月31日に当院で胸痛のためCT検査を受けられた方
利用する試料・情報の種類	<p>■診療情報（詳細：年齢、性別、診断名、治療内容、病歴、基礎疾患、検査結果（血液、生理学検査、画像検査）、受診科など）、CT画像、心電図、血液検査データ等）</p> <p><input type="checkbox"/>手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：_____）</p> <p><input type="checkbox"/>血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（_____）</p>
外部への試料・情報提供	<p>■自施設のみで利用</p> <p><input type="checkbox"/>多施設共同研究グループ内（提供先：_____）（提供方法：_____）</p> <p><input type="checkbox"/>その他（提供先：_____）（提供方法：_____）</p>
研究の意義、目的	<p>Epipericardial fat necrosis (EFN)は、激しい胸の痛みの原因として救急医療の現場で知られますが、まだまだ認知度が低く不明点が多い稀な疾患です。EFNは、一般的には数日で胸の痛みがなくなり、自然に治る良性疾患です。医療現場では、命に関わる他の胸痛をきたしうる病態（肺塞栓症や虚血性心疾患など）を否定してから、CT画像検査にて診断されます。海外の文献では、救急科で胸痛のため撮ったCTの中の2-3%にEFNの所見が見つかることとされています。しかしながら、EFNの患者さんの中には、そこまでの胸痛を伴わない場合もあり、救急科以外の科を受診している方もいると考えられます。現時点では、EFNの患者さんの救急科以外の受診の患者さんの中にどのくらい含まれているのかなどの実態は分かりません。</p> <p>そこで、本研究では、当院を胸痛で外来受診しCT検査を受けた中にどれだけEFNの患者さんが存在し、どの科を受診し、どのように診断されているか、今までに知られていないEFNの特徴等を調査し明らかにすることを目的としています。また、このように特徴が明らかになることにより、EFNの病態解明が進むことも期待されます。</p>
研究の方法	2015年1月～2020年7月の間に当院にて胸痛が原因でCT検査を受けられた患者さんの中から、EFNの特徴がCT画像に認める患者さんを見つけ出します。その後、当院のカルテを参考に、EFN患者さんの臨床像にどんな特徴があるのかを明らかにします。
その他	
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障が

ない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

0166-68-2844

研究責任者 総合診療部 桑井 志麻